

令和5年度第3回日野市指定管理者候補者選定委員会 議事録

1 概要

日 時	令和5年8月8日(火) 13時10分から15時15分まで
場 所	日野市役所本庁舎5階 502会議室
出 席	(市民委員) 比留間委員長、増永委員、小林委員、亀山委員 (行政委員) 赤久保委員、竹村委員、設楽委員 (応募事業者) 公益財団法人 日野市シルバー人材センター
事 務 局	(地域協働課) 西山課長、滝瀬主任 (企画経営課) 松井主幹、永尾
傍 聴 者	なし
議 事	日野市立交流センター(南平駅西、東町、新町、平山)の選定について ● 公益社団法人 日野市シルバー人材センター
記 録 作 成	(企画経営課) 永尾
配 布 資 料	応募書類一式、採点表等審査資料一式

2 要点録

(1) 審査選定にあたっての補足説明

○ 事務局

自主事業、指定管理料についての補足説明。

■ 委員

プロポーザルでもいいんじゃないか、という話がある。プロポーザルは市の内部の制度。指定管理者の選考は協議次第で金額が前後する。プロポーザル方式と似ている一方で不明確。

○ 事務局

指定管理者制度は委託とは異なる制度。

指定管理者制度に馴染まない委託による場合で、価格以外の部分で評価をする場合にはプロポーザルを行う。金額部分とサービス内容を考慮して選定するという意味では、ほかにもプロポーザル方式がある、ということ。

指定管理者制度は、公の施設の管理権限を渡すことに大きな違いがある。それを任せる業者を選ぶにあたって、プロポーザル方式を採用しているもの。

■ 委員

だとすると、権限を渡さないのであれば委託でいい、ということと思う。価格点がないのはよろしくないと思う。

■ 委員

予算の裁量が非常にわかりにくい。プロポーザル方式は質に対する予算を鑑みて選定できる、というのが良いところ。指定管理者制度は不確定な部分があり、事業者にとって、どこまで金額を上げて、どこまで自主事業をやっていいかわからない。一方ではお金をかければいいものができるようにする裁量に限界がある。技術点と価格点が総合的に評価できるプロポーザル方式が良いと思う。あるいは最初から予算を決めるなどのかたちにして、本来業務、提案事業等をこの額の中でやってください、という指定をするなどした方が良いのでは。

○ 事務局

指定管理者制度というものを採用する、ということが出発点。その事業者選定はプロポーザル方式を採用している、という順番。

価格点を導入するとして、何割を価格、何割を技術で評価するか、というのはプロポーザル方式にも元々内在している課題であり、プロポーザル方式の課題と、指定管理者制度の選定の課題を混同してこの場で議論するべきではないと考えている。

■ 委員

あくまでも公の施設を管理する者を選定する、ということでよいか。

○ 事務局

はい。

(2) 日野市立交流センター（南平駅西、東町、新町、平山）の選定（所管：地域協働課）

○ 施設所管課

施設の概要及び審査の際の重点項目などについて説明。

■ 委員

決算額について。企業公社が管理してきた5年間の決算書を確認すると、人件費の「その他」という項目があるが、常勤、非常勤、と区分があるがさらにその他とは何を指すか。

○ 施設所管課

確認できていない。

■ 委員

おそらく人件費の仕分け上の表記だろうとは想像している。

また、過去の6館分の交流センターの経費は年間6,000万円くらいだった。4館で換算すると5,300万円程度とみているが、いくらほどか。

○ 施設所管課

令和4年度実績で約4,900万円となっている。

■ 委員

令和2年度は手数料が150万円ほどと高くなっているが、なぜか。

○ 施設所管課

ゴミ処理、剪定枝の処分費がかかったもの。

■ 委員

最後の令和4年度の法人管理費が上がっている。一般的に何にかかったものか。

○ 施設所管課

解散の準備のためかかっている経費となっている。

■ 委員

募集要項5ページの自主事業のところ。自主事業の部分について、市の使用権限を渡しているはずだが、市の許可が必要という文言がある。これは別途権限があるのか。

○ 事務局

目的内使用の許可権限については、指定管理者に移譲している。目的外使用許可は、指定管理業務から外れるため市の許可が必要となるもの。

■ 委員

交流センターは利用料を取っている。利用が多いかどうかで収入が変わるということと思う。

指定管理者が動力すれば収入が上がるのが一般的かと思うが、利用料の収入はどこが管理して、どのように反映するのか。

○ 施設所管課

交流センターは利用料金制ではなく使用料制なので、市の収入となる。

■ 委員

事業者が努力しても、指定管理料で一律での収入となるなら、あまり利用されなくても関係ない、ということにならないか。

○ 施設所管課

使用料は事業者の実入りにはならないが、稼働率を上げれば、よりサービスの向上があったということで評価をさせていただく。

■ 委員

使用料の考え方が日野市にもあって決めていることと思う。稼働率が上がると、市側はいいかもしれないが、事業者側は光熱費や修繕費など、負担が増えていって、アンバランスになっていく。

■ 委員

頑張ろうかな、という気になってくれないのでは。

○ 施設所管課

利用料金制もよし悪しの部分がある。交流センターだと貸し館がメインになるが、利用の推進に向けた取組みにあまり裁量の余地がない。今のところ、利用料金制が望ましいとは考えていない。

■ 委員

一定額の収入があった方がいい、という考え方と、利用料金制で収入を預けて努力いただくかの二者択一。利用料金制を採用している施設のなかには、コロナ禍などで稼働率がガクっと下がって逆に市側の補填が増える、ということも考えられる。

使用料を採用している方が健全な部分もある、とも思っている。利用料金制の場合、事業者には責任を負わせて収入も支出も頑張っ、となるのは怖い部分もある。

(3) プレゼンテーション及び質疑応答（公益社団法人 日野市シルバー人材センター）

◇ シルバー人材センター

提案内容について説明。

■ 委員

今回の指定管理業務は初めてだと思う。その点を危惧はしている。

指定管理となると、組織のシステムとして動かなくてはいけない。予め計画を立てて、PDCAを回さなければいけないと思うが、今回企業公社より人を継続して雇うと聞いて少し安心した。

会社としてシステムを作り、管理運営を回していただきたい。

◇ シルバー人材センター

経験は不足しているとは思っている。企業公社の方より継続雇用をして、社内の仕組みも改善しながら対応していきたい。

■ 委員

団体の構成員はシニア世代が中心となっていると思う。ただ、交流センターは若い世代も使う。世代を超えた使い方を考えてもらいたい。多世代の交流に資するような考え方を取り入れるべきでは。例えば、SNSなどを使って情報を吸い上げ、発信などをしていないと、若い世代の声が入らないのでは。IT関連の活用がほとんどなく、そうした観点が少し足りないように思う。

◇ シルバー人材センター

会員は確かにシニア世代だが、会員とは別に若い人を雇用することも可能。会員だけしか扱えない、ということではないので、そうした雇用も考えていきたい。

■ 委員

もう一つ、新規事業としていきいきカルチャー教室を挙げられている。交流センターを持っていったら、一般の使用を圧迫しないか。そこの連携はどのように考えているか。

◇ シルバー人材センター

基本的には、交流センターの「空き」を利用した展開を考えている。交流センターの空きが多い部屋の傾向は出ているため、そうしたところを活用していければ、他団体にご迷惑をおかけすることはないと考えている。

■ 委員

今まで委託していた受付管理業務などの経費を直営に変えるなどされていて、人件費が少し高く、維持管理経費が落ちている。

市の参考額に対する提案額の割合が記載されているが、今後どれくらいまで低減されて、交渉で人員配置計画を変えよとかの対応、歩み寄りがどのくらいできるものか。

◇ シルバー人材センター

施設の維持管理費については、ほとんど企業公社さんと変わらない。一番差があるのは人件費の部分。最低賃金が上がっており、反映されている。職員人件費の中で、企業公社さんから人を迎えるにあたって、その人件費も計上しているところ。

どのくらい勉強できるか、というと難しい。

■ 委員

単年度の収支計画書の中に、現場管理費と一般管理費があるが、現場管理費の中に数字があって、一般管理費がゼロになっている。総括表と齟齬があるようになっているが。総括表を見た方が良いか。

◇ シルバー人材センター

単年度の収支計画書を書くと、そのような表示になる様式上の仕様。

■ 委員

障害者差別解消に向けた研修はされているか。

◇ シルバー人材センター

今はしていないが、指定管理者を受けられることになったら研修計画を組んでやっていきたい。

■ 委員

誰でも利用できる配慮、ということで高齢者や障害者の方が使用するにあたっての特別な配慮や工夫はあるか。

◇ シルバー人材センター

その方のご要望に沿ってサービスをするのが基本と思っている。高齢者や障害者だからと過剰なサービスを提供するのではなく、自然なふるまいをするようにサービスをすることが必要と考えている。

■ 委員

指定管理の実績の点について、ほかに経験はあるか。

◇ シルバー人材センター

指定管理は経験がない。ただ、指定管理ではない施設管理については、創設以来日野市さんからお仕事を頂戴している。

■ 委員

研修についてお伺いしたい。職員さんはそのまま継続されるとのことだが、それにしても継続した接遇研修などは必要だと思うが、そうした研修はされるか。

◇ シルバー人材センター

接遇研修や個人情報保護研修は、各施設の担当者全員が毎年受講することを考えている。

■ 委員

事業報告書を見ていると、けがをされている方が多くいらっしゃることに気がなっている。センターさんの方で情報共有など再発防止策はされているか。

◇ シルバー人材センター

高齢者の団体なので、事故は絶えないのが実態。SNS を使って事故の情報を共有している。また、予防策として、一番多い転倒事故を防止するために、想像する自身の体力と現実のギャップを知れるような体力測定会などを開いている。

■ 委員

受付対応業務でクレームが発生した場合はどのように対応される予定か。

◇ シルバー人材センター

現場責任者を配置し、現場責任者と事務局で対応することを基本としたい。収まらない場合は地域協働課さんと協働して解決に当たりたい。

■ 委員

雇用の件で、事務職員と現場の職員があると思うが、どのくらいの人数が必要と考えているか。また、新規雇用が必要と考えているのはどのくらいか。

◇ シルバー人材センター

40 名体制が必要。新たな雇用は企業公社からの職員を含め、5、6 人必要かなと思っている。

■ 委員

会員は雇用とは違うのか。

◇ シルバー人材センター

会員は会員登録であり、雇用ではない。再委託となっている。

■ 委員

60～65 歳くらいの方はどのくらいいらっしゃるか。

◇ シルバー人材センター

120～130 人くらい。定年延長の動きを受けて 70 代が増えるかと思っていたが、去年、今年の傾向から 60 代の方が 6 割。平均年齢も上がっていない。

(4) 主管課質疑応答（地域協働課）

■ 委員

今日選定に当たっての補足資料を配ってもらった考え方に沿って、基本事業と提案事業、自主事業に分けて考えると、採点する上での配点で、基本事業というのは 150 点満点中どの項目を言ってい

るのか。

提案事業と自主事業は影響しないくらい小さなものになる。指定管理の目的からすると、どうなのか。なぜ指定管理がいいのか、委託と比べて経費縮減効果をどのように評価すればいいのか、ということ。

○ 施設所管課

企業公社が解散する中で、どうすればいいのか、ということを課内で検討した。

直営と比べると、具体的な資料は手元にはないが、経費削減の効果はある。また、4館をまとめる事での効果もある。

委託だと一本一本契約が分かれてしまい、職員の配置、事務コストも増えてしまう。

■ 委員

委託に出すよりも、経費が削減され、サービスが向上する、両立するということがか。

○ 施設所管課

サービスという点でも、現場に指定管理者の責任者を置いて、指定管理者の判断の下、サービスが展開できるということで、サービスの向上につながるメリットがあると考えている。

■ 委員

点数の配分は。提案はそんなに求めている、ということか。

○ 施設所管課

交流センターに関しては、安定的なサービス提供、運営が一番求めているところ。そこでの事業展開は難しい施設になっている。

○ 事務局

制度上の話として、指定管理者制度と委託の違いは、行政処分である公の施設の使用許可権限を事業者に渡すことがある。委託だと、例えば受付に人がいても使用許可権限はない。そこは市がやらなければならないところになるので、指定管理者制度の方が、効率化が進むという面がある。

また、料金の徴収する権限も渡せるということ。利用料金制であれば、よりメリットがある。

利用料金制だと使用料より安い金額を設定し得ることもメリット。市が上限を下回る料金を事業者の努力で設定できることがある。

採点表については、この提案事業がどこの項目というものではない。一つ一つの項目の中で、事業者の創意工夫を受けて、どのように評価できるか、というもの。

■ 委員

改善されるといいなと思う。物差しが採点表だとするのであれば、これに沿ったかたちで。

■ 委員

手続条例や指定管理者候補者選定委員会の要綱から、条例の基準がある。その中に裁量がある項目がある。少しずつ改善はされていると思うが、ある程度同じ土俵での評価となることが必要だと思う。昨年の基準と今年の基準で同じ事業者の評価が全然変わってしまうことも望ましくない。

年度間の比較がされてしまう。慎重に考えていった方がいいかなと思う。

■ 委員

事故が多いとか、経験がないという点から不安が残る。もし決まったならば、主管課さんにはフォローをしていただきたい。

選定されてよかったな、というかたちで終わりたいので、ある程度目をかけていかないと、大きな事故につながりかねない部分もある。企業公社から 5, 6 名雇用しても全体の人数からすると少ない。そういう中でフォローしていただきたいという意見。

○ 施設所管課

良くも悪くもよく知る業者さん。コミュニケーションは取れているので、しっかり見ていきたい。

■ 委員

採点表上、新規参入を考えると、管理経験に係る点数があるのはどうなのか。倍率が 1 なのでいいのかなとは思うが。

○ 施設所管課

正直、経験はあってほしい所。あまり重視してしまうと新規参入を害するというのもあるが、項目に入っている、というところ。

■ 委員

倍率が高ければ問題かもしれないが、1 倍なので。

(5) 採点結果及び意見交換

■ 委員

実績のところ。例えば総合評価方式では会社としての実績と、現場責任者としての実績と 2 種類ある。会社と人という 2 つの面から管理実績経験を見る事もできるのでは。

■ 委員

他社から人を持ってくる、というのは実務としてはあるが、会社としての実績としてはないので、それを評価として見るのは違うのでは。事情としては分かる部分はあるが。

■ 委員

給与体系が違うため、シルバー人材センターとしては採用するつもりではいるかもしれないが、実際には雇用に至らない可能性もなきにしもあらずと思う。

■ 委員

今回ではなく、今後、次年度以降、実績の評価をどのように考えるか。社会規範的に問題はないか。

■ 委員

入ってくる前提で点数をあげてしまうと、結局人が入らなかったときにどうなるのか、という問題は

ある。実際、総合評価だと点数を引くので。

■ **委員**

今回のものは、実績はないという整理で、今の状況で評価をして、今後雇うことを前提にした予想図として評価するか、というところかと思う。

■ **委員**

非公募特命でもいいところ、公募にしたのがポイントと思っている。企業公社が解散するということ
で引き継いでくれるところに特命で出すこともできたはず。応募がなかったときのリスクもあった。
一方、公募したことで交渉の余地が残る。その裁量を残しているところが優良な自治体だと思った。
使用料なのでお金が入ってこない、入ってきたとしても高額な持ち出しになる。指定管理をビジネス
で捉えないと事業者だと耐えられない。

<採点>

○ **事務局**

採点の集計を終えたので、結果を発表する。

公益社団法人 日野市シルバー人材センター 782点 74.5%

よって、6割を超えているので、公益社団法人日野市シルバー人材センターが日野市立交流センター
の指定管理者候補者となった。

■ **委員長**

事務局より報告があったとおり、日野市立交流センターの指定管理者候補者は、公益社団法人日野市
シルバー人材センターとなった。

事務局は、今回の議論等について報告書に記載いただきたい。

○ **事務局**

報告書は最終確認だけでなく、今回までのものを記載した途中経過として一度ご提示するので、ご確
認いただきたい。

(6) 次回の説明

○ **事務局**

次回の予定は8月10日(木)。次々回について、台風が当たってしまう恐れがある。その場合、14
日の案件を17日にずらすということも検討する。10日に判断する。

■ **委員長**

では、本日の案件はすべて終了しました。ありがとうございました。

(閉会)